

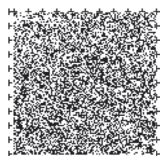
2

「心のバリアフリー」の ためにできること

2 ページの車いすを使っているAさんは入り口に階段しかなくて中に入れません。



また、3 ページの目が見えないBさんは
信号機の色が見えていないので
横断歩道をわたれません。



では、4ページの^{みみ き}耳が聞こえないCさんについて^{かんが}考えてみましょう。



ワーク Cさんに対して、^{たい}自分が^{じ ぶん}できることを^{かんが}考えてみましょう。

Blank area for writing answers.

コラム

^{まち だし やくしょ} 町田市役所ではどうしてる？

^{みみ き} 耳が聞こえない
^{しゅ わ つう やく} ので、手話通訳
をおねがいでき
ますか？

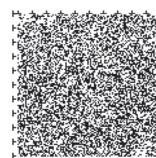
わかりました。
^{ひつ だん} 筆談でおねがい
します。



^{ひつ だん} *筆談は15ページで説明しています。^{せつ めい}



すみません
^{しゅ わ つう やく しゃ} 手話通訳者が
すぐに来られません
待ちますか？
^{わたし ひつ だん} または 私が筆談します



「障がいの社会モデル」とはなんだろう？

6 ページで車いすの人が階段しかないお店に来たとき、お店の人は、車いすの人にどうしたらよいか確認して、スロープを用意しました。そのあと、お店の人は「車いすの人がお店に入れないのはおかしい。車いすの人が入れないお店の方が問題だ。」と思い、入り口の階段の横にスロープをつけたそうです。

あなたは「車いすの人が入れない入り口に問題がある」というように“本人ではなく「まわりにバリアがある」ことに問題がある”と気づきましたか？

つまり、

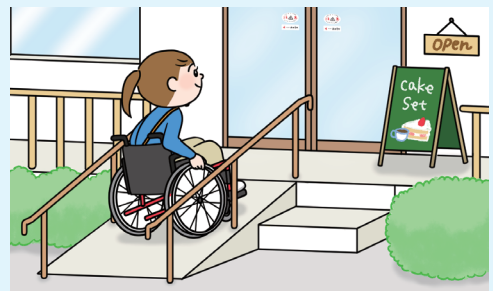
障がい（バリア／障壁）は本人ではなく、まわりの環境の中にある

と考えられます。このような考え方を障がいの社会モデルといいます。

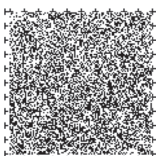
誰もが暮らしやすいまち（社会）にするためには、まち（社会）のバリアをみんなで取りのぞくことが大切です。

階段のような「目に見えるバリア」を解消するには、時間やお金がかかりますが、私たち一人ひとりの声かけ、サポートで解決できる部分もたくさんあります。

例えば、7 ページに出てきた耳が聞こえないCさんに対しては、ジェスチャーや筆談で伝えることができます。



きゅうびょうにんたいおう
急病人対応で
止まって
います





じゃあ、
わたし
私たちにできることって、
どんなことかな？



こえ
声かけから
はじめてみようかな

こえ

声かけのポイント

その1

あいて かお み いどう
相手の顔が見えるように移動します。
(うし こえ
後ろから声をかけるとビックリしてしまいます。)

その2

あいて かお み
相手の顔を見て、
なに て つだ
「何かお手伝いできることはありますか？」と聞きましょう。



め み ひと ば あい うで かた かる あいず
目の見えない人の場合は、腕や肩などを軽くさわり、合図します。

みみ き ひと ば あい はず くち かたち み
耳の聞こえない人の場合はマスクを外し、口の形を見せます。

まち (しゃ かい) の中にはさまざまな人がいて、
いろいろなコミュニケーション方法があります。

もし、断られてしまったら…

もしかしたら、「だいじょうぶです」と断られてしまうかもしれません。
そのときは、「いまはこまっていなかったんだ！よかった〜」とあんしん
てください。

そして、またこまっている人を見かけたら、こえ
声をかけてみてください。

「こまっているかもしれない」と気づけることが大切です。

コラム

ほん にん こえ
本人に声をかけましょう

あなたがこえ
声をかけたい人のとなりにサポートする人（家族、
しやわつうやくしゃ かいじょしゃ ば あい
手話通訳者、介助者など）がいる場合があります。

話をするときは、サポートする人ではなく、こえ
声をかけたい人
に向かって話しましょう。

直接その人と話せない場合でも、サポートする人といっしょ
にその人の思いを確認します。

本人ではなく、サポートする人と話すと、ほん にん お し
本人は無視されて
いるように感じて嫌な気持ちになります。

